

[令和6年度事務事業]

Ⅱ．事業目的の達成状況							
事業の成果や活動実績の測定							
11	定性的な成果目標						
	身体上の障害や難病を原因とした身体機能の制限を補う						
	当該目標を設定した理由	身体上の障害や難病を原因とした身体機能の制限を補うことで、障害者児やその家族の福祉の増進を図ることができるため。					
	目標に対する実績	補装具費の支給により、身体上の障害や難病を原因とした身体機能の制限を補うことができた。					
12	活動指標	単位		実績		目標	
	支給件数	件		令和5年度	令和6年度	令和7年度	
			目標値	—	—	—	
			実績値	1,708	1,794		
			達成率	—	—		
	当該指標を選定した理由	補装具費の支給により、身体上の障害や難病を原因とした身体機能の制限を補うことができるため。					
	目標値の設定根拠・算出方法	事業の性質上、数値化した目標の設定は困難であるため、目標値を設定しない。					

令和7年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	障害者（児）補装具交付・修理	事業番号	011-164
-------	----------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。（単位：千円）

	項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度		令和7年度
		決算	決算	当初予算	決算	当初予算
13	事業費（a）	184,917	199,621	194,515	228,774	206,585
	国支出金	79,997	96,833	95,914	104,408	102,005
	府支出金	45,757	49,560	48,073	56,686	51,289
	市債	0	0	0	0	0
	その他（ ）	0	0	0	0	0
	受益者負担金(使用料、手数料等)	0	0	0	0	0
	一般財源	59,163	53,228	50,528	67,680	53,291
14	人件費（b）	820	810	810	810	840
15	年間経費（c）=(a)+(b)	185,737	200,431	195,325	229,584	207,425

事業費の内訳

（単位：千円）

	項 目	年度		事業費	うち 一般財源	項 目	年度		事業費	うち 一般財源
		R6	決算				R6	決算		
16	事業費内訳	消耗品費		31	31	障害児補装具費（市）	R6	決算	458	458
		R7	予算	31	31		R7	予算	929	929
	障害者補装具費（国）	R6	決算	149,545	52,834		R6	決算		
		R7	予算	144,976	36,244		R7	予算		
	障害児補装具費（国）	R6	決算	77,200	12,817		R6	決算		
		R7	予算	59,034	14,759		R7	予算		
	障害児補装具費（府）	R6	決算	1,521	1,521		R6	決算		
		R7	予算	1,602	1,315		R7	予算		
	障害者補装具費（市）	R6	決算	19	19		R6	決算		
		R7	予算	13	13		R7	予算		

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

	区 分	単位	令和5年度	令和6年度	
17	①	支給件数	件	1,708	1,794
	②	上記①にかかる年間経費	千円	200,431	229,584
	③	単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位	117,348	127,973
	算出についての説明等				

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18	単位当たり経費については、約128,000円（うち国負担1/2、府・市負担1/4）となっているが、補装具が障害者児の身体機能を補完又は代替する義肢、装具、車いす等であり、1件ずつの費用が高額なものであること、また、その費用を助成することにより障害者児の社会参加の促進や自立支援に寄与することを考慮すると、過剰なものではないと判断する。 なお、難聴児特別補聴器等の購入等費用支給事業においては、対象者や基準額の拡充を求める要望があるため、今後も障害の状況等や費用対効果を見極め、拡充の可否を判断する必要がある。
----	--

KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19	本事業は、身体障害者児の日常生活や社会生活（職業生活）の便宜を図るために、身体機能を補うための補装具の購入・借受け・修理に要する経費を助成しており、障害者児及びその家族に対する支援に寄与している。
----	---